

57. <月面クレーター>



広々とした大地に整然と点在する数千のクレーター。自然の造詣としては、あまりにも突飛な風景です。月面クレーター？それとも、古代都市の廃墟？ 土葬の墓地？

実は、これが水道のマンホール。国によって、カナートとかカレーズとか呼ばれている沙漠の地下水道です。もともと、山脈に降った雪解け水が、地下水となって流れ、低地にまで流れ込み、泉となって沙漠を潤しているところがオアシスですが、オアシス都市も成長すると、それだけでは飲料水、灌漑用水が不足。そこで、沙漠の地下に人工水路を延々数百 km も作り、山脈のふもとからオアシス都市へ水を運んできました。古代の水道としては、ローマやマヤの水道橋が有名ですが、このカナートも、東は中国新疆から中央アジア、そして西はモロッコの沙漠地帯にも見られます。地下にすることで水の蒸発が防げ、さらに延々と地下を這わすことで、地下水脈の水量も取り込めるそうです。

ところで、古いものでは紀元前に建設された地下水路もあるのですが、どうやって作ったのでしょうか。

まず、間隔をあけて井戸（堅穴）をならべて掘り、井戸の底から次の井戸の底へ横穴を掘ってつなげていったのだそうです。どことなく、今の推進工法、シールド工法につながるものがありそうです。

< 荒井 俊博 >

※No. 63 号(2007/2/5)に掲載